

氏 名 : 丹野 真理子
 学位の種類 : 博士 (健康科学)
 学位記番号 : 研博第 58 号
 学位記授与年月日 : 令和 5 年 3 月 9 日
 学位授与の要件 : 学位規則第 4 条 1 号該当
 論文題目 : 看護師長のコンピテンシーと経験から学ぶ力との関連
 論文審査委員 : 主査 角 濱 春 美
 副査 鄭 佳 紅
 副査 上 泉 和 子

論文内容の要旨

I. はじめに

近年、組織における看護管理者の能力や特性をあらわす言葉としてコンピテンシーが多く用いられている。看護師長のコンピテンシーは、長い期間をかけて職務経験を積むことや、さまざまな経験をすることで高めていけると予測される一方、質の高い経験を積むチャンスがあっても本人の学ぶ力がなければ最大限の学びを得ることは難しいという課題がある。そこで本研究では、看護師長のコンピテンシーと経験から学ぶ力との関連について明らかにすることを目的とする。これが明らかとなることで、今後、看護師長の経験に着目した教育や組織での育成、個人のコンピテンシーの向上における示唆が得られると考える。

II. 研究方法

1. 研究の概念枠組み(図 1)

本研究は、経験から学ぶ力を首尾一貫感覚 (Sense of coherence, 以下 SOC) と経験学習を経験から学ぶ力とし、それらの概念および個人属性が看護師長のコンピテンシーに影響を与える要因であると仮説を立て、関係性を明らかにするものである。

2. 調査方法

- 1) 対象者 : 全国の 300 床以上の病院に勤務する看護師長 1186 名
- 2) 調査期間 : 2021 年 11 月～2022 年 1 月

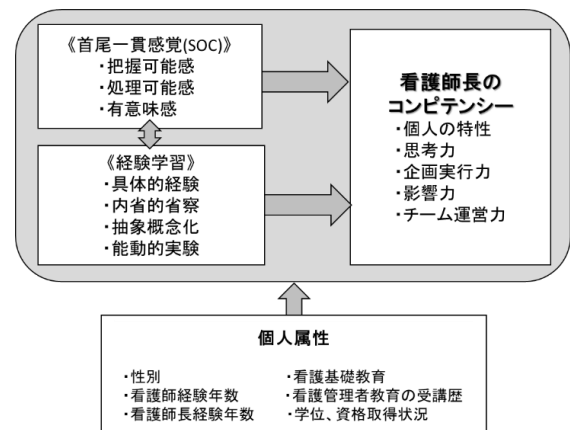


図 1 研究枠組み

- 3) 収集方法：研究協力の承諾が得られた施設に依頼文および調査票を郵送し、看護部門の長に対象者への配布を依頼した。調査は無記名とし、回収は郵送による直接回収を行った。
- 4) 調査内容：①個人属性（看護師長経験年数，看護管理者研修受講歴等）、②T コンピテンシー尺度（東京大学附属病院看護部ほか，2014，丹野ら，2021）、③SOC スケール（Antonovsky, 1977）、④経験学習尺度（木村ら，2011）を用いた。
- 5) 分析方法：SPSS を用い、記述統計や相関係数を算出し、影響を与える要因の分析について群間比較や多変量解析を行った。また、共分散構造分析を行い、モデルを作成した。
- 6) 倫理的配慮：調査への協力は自由意思であり、研究者が直接回収を行うことで任意性を確保した。調査票は無記名とし、所属施設が特定されるようなコード番号等も使用しなかった。なお、本研究は青森県立保健大学の研究倫理審査委員会の承認を得た（承認番号：21053）。

III. 結 果

578 部の回答が得られ、そのうち 556 部を分析対象(有効回答率 46.9%)とした。コンピテンシーと経験学習においては、総得点において有意な相関があり ($r=0.643$)、すべての領域間でも有意な相関があった($r=0.398\sim 0.593$)。また、コンピテンシーと SOC においても、すべての領域・総得点において有意な相関があった。さらに、経験学習と SOC についても、すべての領域・総得点において有意な相関がみられた ($r=0.185\sim 0.353$)。特に SOC の「有意味感」と経験学習の「具体的経験」の相関および経験学習の「内省的省察」とコンピテンシーの「個人の特性」「チーム運営力」の相関が強かった。属性との関係は、認定看護管理者教育課程サードレベル修了者のコンピテンシーは有意に高く、経験学習および SOC においても、有意に高いという結果が得られた。さらに、看護師長のコンピテンシーについて線形回帰分析の結果、経験学習における「具体的経験」「内省的省察」「抽象的概念化」、SOC における「把握可能感」、属性の認定看護管理者教育課程、看護師長経験年数が説明変数として挙げられた ($R=0.694$, $R^2=0.481$, $AdjR^2=0.476$)。また、T コンピテンシー尺度の因子分析を行い、その上で共分散構造分析を実施、パス図を作成した。その際、重回帰分析の結果で説明変数として挙げられた 6 項目を用いて分析を行ったが、有効なモデルは得られなかった。そのため、SOC および経験学習に関してはすべての因子を含んだパス図を作成し、 χ^2 検定の結果、帰無仮説は棄却されず ($\chi^2=259.276$, 自由度=74, $p=0.000$)、モデルの適合度は、 $GFI=0.936$, $AGFI=0.909$, $CFI=0.953$, $RMSEA=0.067$ と採択基準を満たしていた (図 2)。

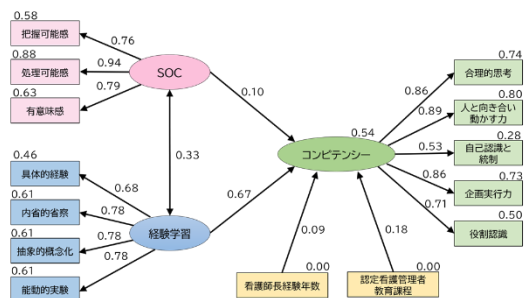


図2 看護師長のコンピテンシーと SOC，経験学習の関連モデル (誤差省略)

IV. 考 察

看護師長のコンピテンシーは、SOC という内的要因に比べて経験学習という主体的行動から影響を受けていた。経験学習の中でも特に「内省的省察」がコンピテンシーと関連が強く、経験することだけではなく、経験したことを多様な視点から捉え直すことや、自分のやり方、考え方を見直すということがコンピテンシーを高めることにつながっていると見える。また SOC の「有意味感」と経験学習の「具体的経験」も関連があり、失敗を恐れずに自ら経験しようとするのと、そこに価値や意味を見出していけることが経験のチャンスを自ら作っていくことにつながると見える。そうして自らチャンスを生みだし、経験し、内省していくことでコンピテンシーを高めていけるという示唆が得られた。また、看護管理者の学習経験においても関連がみられ、認定看護管理者教育課程においては看護管理の知識を系統的に学ぶこと、自らの看護管理の分析に基づいて理解を深めることなどが看護師長のコンピテンシーを高めることにつながるプロセスであると考えられる。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本論文は、看護師長の持つ能力（コンピテンシー）と経験学習及び首尾一貫感覚（以下 SOC）との関連について探求した関係探索型研究である。層化抽出した全国の病院からランダム選出した看護部門の看護師長に質問紙調査を行った。研究者自身が開発したコンピテンシー測定尺度を用い、これを説明する要素の抽出と尺度間の関連性を分析した。結果、経験学習が SOC に影響し、経験学習、SOC それぞれがコンピテンシーを形作るが、経験学習の方がより関連が強いというモデルが描けた。看護管理者としての経験から学習を積み重ねることがコンピテンシーを形作ることから経験の内省的省察を促す教育が必要であると考察された。文献検討の結果および既存理論の十分な理解の上に仮説を導いており、データ収集、結果、考察に至るまで論理的に説明されていた。看護管理者の能力に関わる新発見が得られており、研究者としての態度、能力が十分であると判断できることから、博士（健康科学）に値すると認める。